

第217回 森で遊ぶ会 「安倍奥の桜」実施報告書

- 1 日時:令和8年3月30日(月) 9時00分~14時30分
- 2 場所:足久保~梅ヶ島新田
- 3 参加者:20名
- 4 担当幹事:青野ダイチ、高橋健三
アシスト会員:越智寿美子、小嶋博、小久保忠嘉、杉山雅章



ベニシダレ

『観察会状況』

天気予報は芳しくなく、雨も覚悟の空模様だったが、当日は時折小雨に降られたものの、何とかさほど濡れずに済んだ観察会となった。特に班分けはせず、一団となって観察ウォークを行った。

始めに観たのは足久保の枝垂れ桜とソメイヨシノの大木で、どちらも花はちょうど見頃、なかなか見事なものであった。枝垂れ桜はエドヒガン系で萼筒が壺状の膨らんでいること、ソメイヨシノはエドヒガンとオオシマザクラの交配種で、花は葉が出る前に一斉に咲くので華やかではあるが寿命が短いこと、更にテングス病に罹り易いなど欠点もあることなどを説明した。近年ではソメイヨシノの代わりにジンダイアケボノを植えることもよくあることや、ジンダイアケボノの由来などを話した。

真富士の里でトイレ休憩後、コンヤの里さくら園内を歩いた。色々な桜があったが、紅枝垂れはまだ僅かに咲き始めたばかり、満開になったらさぞ綺麗だろうと想像された。ここでは、木に付着した小さな蘭の仲間に興味深々の参加者がおられた。

かつて有東木にも桜の大木があったのだが、倒木の惧れがあるというので伐られてしまっていたのは残念なことだった。

梅ヶ島黄金の湯構内で昼食の後、新田の枝垂れ桜を観た。ここはやや標高が高いためかまだ満開にはなっていなかったが、そこそこ花を堪能出来た。その後、数珠が久保トンネル近くの枝垂れ桜、そして中平では満開のエドヒガンの大木も観て、帰路についた。真富士の里でトイレ休憩の後、無事に静岡駅前に帰着した。

(高橋 記)

観察会の状況写真



足久保の枝垂れ桜とソメイヨシノ



花の中を覗くと……



梅ヶ島 コンヤの里さくら園



ベニシダレやオオシマザクラなど美しい



黄金の湯周辺に咲くアブラチャン



フサザクラだが盛りは過ぎていた



新田のシダレザクラ



中平のエドヒガン

さすが「森で遊ぶ会」の参加者の目は鋭い。咲き終えた梅の樹皮に付いている緑の物体を見逃さなかった。それは樹皮に着生しているカヤランとクモランであった。どちらもラン科の植物で、カヤランは和名のごとく、葉がカヤの葉に似ていること、クモランは、見た目がクモの足のように見えることから名づいたようだ。カヤランの花期は4～5月であるが、前年のものか細長い果実がぶら下がっていた。クモランは丁度果実が裂開し、綿毛の中の粉の粒ほのごく小さな種子を、散布しているところであった。

クモランのクモの足のようなものは葉ではなく、葉緑素を持つ根であるという。中心にごく短い茎があり、そこから6～7月、細い花茎を数本立ち上げ、直径1mmの小さな花を数個つけるということだった。また、果実は熟すまで1～2年を要するようだ。(梅ヶ島コンヤの里さくら園にて)



裂開し種子を散布中のクモランの果実

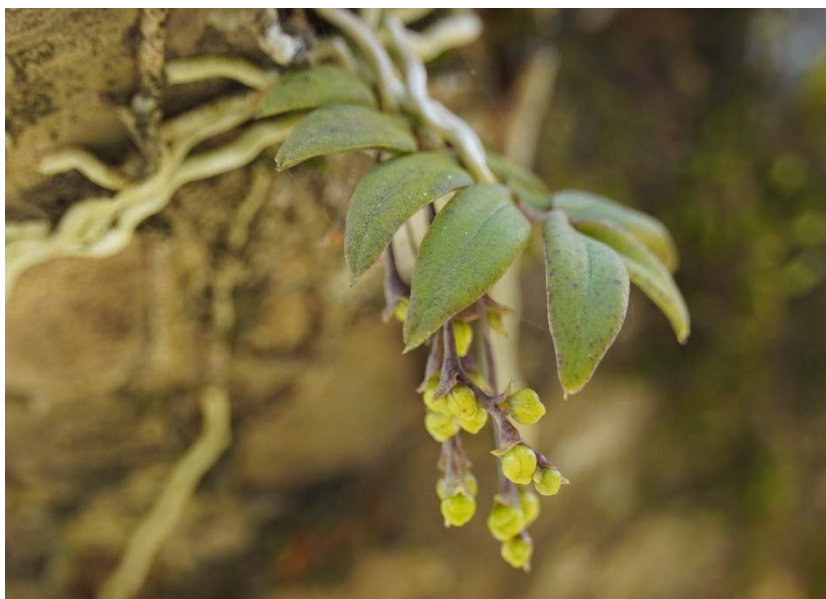


参考 カヤランの果実(ネットから)



裂開中のクモランの果実、クモの足のように見えるのは根

裂開し種子を散布中のカヤランの果実



カヤランの蕾 花期は4~5月ということだから開花は近いだろう